

令和4年度「発掘調査速報展」開催

公益財団法人いわき市教育文化事業団では、令和4年度の発掘調査事業として、平城跡（並木の杜）をはじめ、本調査4箇所・試掘調査19箇所の発掘調査を実施しました。試掘調査は宅地造成等に伴う確認調査で、平城跡（^{ぬしやぐら}塗師櫓）では、東日本大震災で崩落した石垣の復元を目的とした石材カルテ作成と石垣基礎の確認調査を実施し、外見だけでは分からない新たな発見もありました。

これらの発掘調査成果を広く市民の皆様にお知らせするため、令和5年4月22日（土）から7月2日（日）まで、いわき市考古資料館で「令和4年度 発掘速報展」を開催しています。

J Rいわき駅周辺再開発に伴う平城跡（24・25次）調査では、磐城平城築城以前の古代・中世から近世・近代における遺構や遺物が多数見つかっています。速報展では、調査時の写真のほか、築城時期とされる17世紀初頭の地鎮遺構から出土したかわらけ、18世紀頃の井戸跡に埋納した一分金のほか、近世の屋敷で使用された陶磁器類や、明治頃に使われていた生活の道具などを展示しています。

そのほかの調査では、縄文時代の墓から見つかった土器などを展示するほか、試掘調査成果により新たに登録された遺跡についても紹介しています。

令和4年度 発掘調査遺跡一覧

No.	地区	遺 跡 名	調査種別
1	平	平城跡 24 次（並木の杜）	本調査
2	平	平城跡 25 次（並木の杜）	本調査
3	平	平城跡 26 次（市道）	本調査
4	平	岡ノ内遺跡	本調査
5	勿来	北ノ作遺跡	試掘調査
6	好間	好間条里跡	試掘調査
7	平	平城跡 23 次（並木の杜）	試掘調査
8	内郷	内郷高坂条里跡	試掘調査
9	常磐	藤原古館遺跡	試掘調査
10	好間	山ノ坊遺跡	試掘調査
11	平	砂畑遺跡	試掘調査
12	平	忠教寺遺跡	試掘調査
13	平	平城跡 27 次（市道）	試掘調査
14	小川	伊吾内遺跡	試掘調査
15	勿来	北ノ作館跡（隣接）	試掘調査
16	好間	好間上野原遺跡	試掘調査
17	平	平城跡 28 次（水の手郭）	試掘調査
18	勿来	関根遺跡	試掘調査
19	小名浜	須賀蛭C遺跡	試掘調査
20	平	平城跡 29 次（六間門）	試掘調査
21	内郷	高坂館跡	試掘調査
22	平	平城跡 30 次（塗師櫓）	試掘調査
23	勿来	北作B遺跡	試掘調査



東日本大震災で上部が崩落した磐城平城塗師櫓の全景（石垣内部全面に栗石が敷き詰められている）



桶状の井戸枠を重ねた井戸（平城跡 24 次）



江戸時代の三島唐津（平城跡 24 次）



庭園遺構と考えられる近世の堀跡（平城跡 25 次）



堀跡から出土した曲物の柄杓と櫃（平城跡 25 次）



道路拡幅部分の調査状況（岡ノ内遺跡）

★平城跡 24 次の調査成果

平城跡の第 24 次調査は、いわき市平並木の杜の商業施設建設範囲約 1,600㎡を対象に実施されました。

調査の結果、明治以降、幕末、中世の遺構が見つかりました。近代のものには柱穴・土坑・溝跡・石垣があり、石垣は明治時代の郡役所に伴うものと見られます。近世では土坑・柱穴・溝跡等が確認され、深さ 3 m を測る井戸跡も見つかりました。中世では柱穴・溝跡・土坑等があり、溝跡は東西南北に沿って構築され、区画のためのものと考えられます。また、これらの面の下には、水田が営まれていた痕跡が確認されました。主な遺物としては、国産陶磁器のほか、青磁や白磁等の中国産陶磁器、かわらけ、瓦、人形木簡等の木製品、煙管や釘、鎌などの金属製品、永楽通宝等の銭貨、土馬等の土製品、埴埴や窯道具、馬や魚の骨等が出土しました。

★平城跡 25 次の調査成果

25 次調査では、古代から近代までの文化面が確認されています。近代面では、石積遺構・池跡・遺物廃棄跡・柱穴が確認され、明治時代前半の陶磁器類が出土しました。石積遺構は、磐城郡役所に伴う遺構と考えられます。近世面では、磐城平城に伴う屋敷跡から、掘立柱建物跡・井戸跡・導水施設（上水道）・溝跡・土橋を有する堀跡（庭園遺構）・厠跡・柱穴が確認され、多量の陶磁器や木製品、銭貨（一分金）等が出土しました。中世面では、掘立柱建物跡や祭祀遺構などが確認され、かわらけ・肥前・瀬戸・美濃産陶器や中国製白磁・染付磁器や木製品が出土しました。室町時代頃の屋敷跡と考えられます。古代面では、平安時代の土師器・須恵器とともに耕作の痕跡などが確認されました。これらの成果から、いわき駅周辺の歴史の変遷が明らかとなってきました。

★岡ノ内遺跡の調査成果

道路工事に伴い調査を行いました。令和 3 年度から継続した調査で、縄文時代の遺物包含層の調査が中心となりました。今年度は包含層のほかに、古墳時代の土坑が見つかりました。

遺物包含層からは縄文時代の中期から後期にかけての縄文土器を中心として、石鏃・敲石などの石器や、弥生土器が出土しています。古墳時代の土坑からは二重口縁の壺が出土しており、周辺に古墳時代の遺跡があることが想定されます。

★関根遺跡の調査成果

関根遺跡は、いわき市勿来町酒井関根の舌状台地上に位置しています。現況は平坦な畑地で、4カ所のトレンチを設定して調査をおこないました。その結果、竪穴建物跡2棟と土坑1基のほか、縄文晩期の浅鉢を伏せた状態で埋納した、墓と推定される遺構が検出されています。そのほかの遺物は、弥生土器・土師器・須恵器が出土しています。

★須賀蛭C遺跡の調査成果

須賀蛭C遺跡はいわき市泉町下川に位置しています。大畑貝塚から続く台地上に立地し、東側は海食崖で太平洋に接しています。西に緩やかに傾斜する畑地に3カ所のトレンチを設定して調査をおこないました。その結果、弥生時代の竪穴建物跡1棟、土坑1基・倒木痕・ピットが検出されました。遺物は縄文早期と弥生後期の土器が出土しています。

★磐城平城跡塗師櫓の調査成果

塗師櫓は平城の裏門を構成する櫓のひとつで、2011年の東北地方太平洋沖地震で石垣の上半が崩落しています。今回は、石垣の構造確認のため、北東面石垣下部（1T）、上端の南東部（2T）、南西面（3T）の3カ所にトレンチを設定しました。調査の結果、1Tでは現地表面下にさらに3段の石垣と切石の基礎が検出されました。この切石は石垣に直交して据えられており、絵図に描かれた土塀の基礎の可能性ががあります。2Tでは、南東面の一部に土塁が築かれており、土塁と石垣の内側全面に栗石を敷き詰めていることが分かりました。3Tでは切石を階段状に並べた雁木が初めて検出されました。位置関係から塗師櫓に上るための階段で、10段以上あったと推測されます。遺物は大量の瓦と漆喰が出土しており、櫓の改築がおこなわれていたと考えられます。

★北作B遺跡の調査成果

北作B遺跡は、国道6号勿来バイパス工事に伴う確認調査で新たに発見された遺跡です。丘陵の尾根上と比較的緩やかな傾斜地に計12カ所の試掘トレンチを設定して調査を実施しました。その結果、尾根の大部分と尾根から下った狭小な平坦部から、竪穴建物跡・溝跡・土坑のほか、木炭焼成遺構などの遺構が見つかりました。主な時期は平安時代で、他に弥生時代時代の遺物包含層が確認されています。



土坑墓から出土した縄文土器（関根遺跡）



弥生時代の竪穴建物跡調査状況（須賀蛭C遺跡）



石垣基礎の検出状況（磐城平城跡塗師櫓）



櫓に上る切石の階段（磐城平城跡塗師櫓）



丘陵上でのトレンチ調査状況（北作B遺跡）

うめ の さくわらかまあとぐん
★梅ノ作瓦窯跡群の調査成果

梅ノ作瓦窯跡群は、石森山丘陵から南西に延びる枝状に張り出した、標高 30 ～ 50 m の舌状台地先端部の斜面に立地しています。この台地上には、延喜式内社の二えんぎしきないしゃ 俣神社が鎮座し、台地の西側には、夏井川が北から南に向かって流れています。本窯跡は、平成 17 年に『根岸ねぎし官衙遺跡群』として国史跡に指定された根岸遺跡と夏井なついで廃寺跡に瓦を供給した窯跡として知られています。

昭和 63 年と平成 13 年には、開発に伴う発掘調査が二俣神社の南斜面で実施され、窯跡 10 基（瓦陶兼業窯がとうけんぎょうかま跡（瓦・須恵器ふたの両方を焼いた窯）7 基・木炭窯跡 2 基・灰原（窯からかき出した灰・木炭や割れた焼き物を捨てた場所）1 か所）が見つっています。遺物は瓦・須恵器が出土しており、夏井廃寺跡出土の複弁四葉蓮華文軒丸瓦ふくべんよんようれんげもんのかまるかわらと同範の瓦（同じ木型で模倣どうはんを型取った瓦）が確認されています。このことから、夏井廃寺で使用された瓦が本窯跡で焼かれていたことが分かってきました。

本窯跡でも、平成 29 年から令和 4 年度まで、国史跡指定に向けた確認調査が続けられており、台地の北西斜面では、須恵器を焼いた窯跡 3 基と不明遺構 1 基が確認されています。この 4 基の遺構はつくられた順序が分かっており、3 号が一番古く、2 号＞1 号＞不明遺構の順で新しくなっています。窯跡は 3 基共に地面をくりぬいてつくられた地下式の窖窯あながまで、窯内部と灰原から、須恵器（蓋・高台付杯・円面碗・甕など）のみが出土しています。どの窯跡も須恵器だけを焼成した窯跡で、瓦を焼いた窯跡は確認されませんでした。窯跡から見つかった須恵器の時期は、8 世紀の初め頃と考えられます。



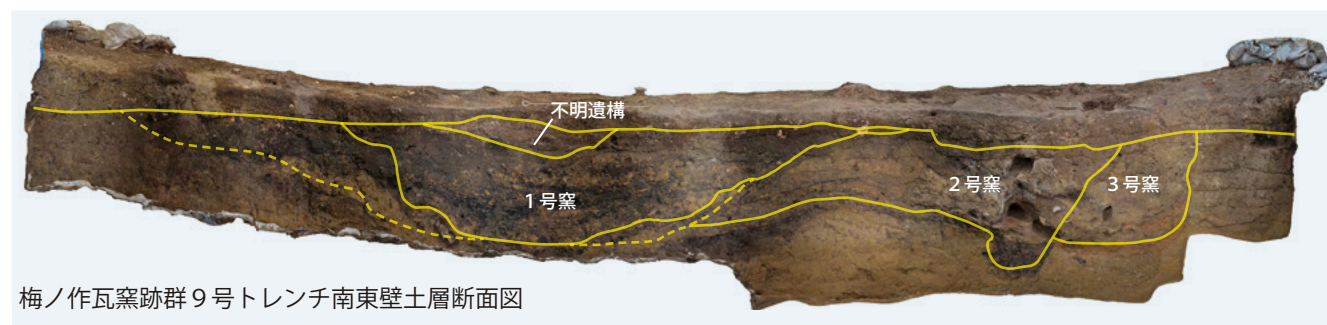
上空から見た梅ノ作瓦窯跡群北東調査区全景



熱で硬化した焚口の壁と炭化物の堆積状況（2号窯跡）



不明遺構の須恵器出土状況



梅ノ作瓦窯跡群9号トレンチ南東壁土層断面図

